

大阪市大『創造都市研究』第8巻第1号(通巻12号) 2012年6月

■ 論文 ■

47頁～71頁

地域再生における「創造的資本」の継承と発展 ーヴォーリス、『近江兄弟社』をめぐる公益活動を通じてー

山村和宏(大阪市立大学大学院・創造都市研究科・客員研究員)

Succession and Development of the Creative Capital in Community Revitalization :
The Public Interest Activities on Vories and Omi Brotherhood

Kazuhiro YAMAMURA (Visiting Fellow, Graduate School for Creative Cities, Osaka City
University)

【目次】

はじめに

I. 地域再生における「創造的資本」の概念

1. 「創造的資本」とは
2. 『近江兄弟社』にみる「創造的資本」
3. 本稿における「創造的資本」の分析視点

II. ヴォーリスをめぐる公益活動

1. 特定非営利活動法人ヴォーリス保存再生運動一粒の会
2. 特定非営利活動法人ヴォーリス精神継承委員会
3. ウィリアム・メレル・ヴォーリス展 in 近江八幡

III. 「一粒の会」のヴォーリス建築保存再生運動

1. 近江八幡のヴォーリス建築
2. 旧八幡郵便局保存再生運動と「一粒の会」
3. 「一粒の会」の活動と運営

IV. ヴォーリスをめぐる公益活動と「創造的資本」

1. ヴォーリスをめぐる公益活動の特性
2. 「一粒の会」にみる「創造的資本」の形成
3. 「一粒の会」の「創造的資本」

おわりに

【要約】

本研究は、ヴォーリス、『近江兄弟社』の活動、その活動から創出された地域資源を把握し、それらの相互作用が地域にもたらす影響や新たに創出された公益等を明らかにすることを目的としている。このために、本稿では、ヴォーリス、『近江兄弟社』をめぐる公益活動について焦点をあて、組織のミッションや運営実態、それら活動における組織と地域資源の相互作用、『近江兄弟社』の「創造的資本」との関係性等を考察した。

考察の結果、ヴォーリス、『近江兄弟社』をめぐる公益活動の中で、ヴォーリス建築保存再生運動一粒の

会は、ヴォーリズ、『近江兄弟社』に関連する地域資源に働きかけ、萌芽期の開放的なクリエイティブ・コミュニティとして成長しつつあり、ヴォーリズ建築の保存再生運動から培われた技術・ノウハウを活用して、地域に新たな公益をもたらす可能性を有することが明らかになった。

【キーワード】

創造的資本、近江兄弟社、ヴォーリズ建築、建築保存再生、クリエイティブ・コミュニティ

【Abstract】

The primary purpose of this study is to grasp activities and local resources created by Vories and Omi brotherhood, and to clarify the impact on local community, public interests produced by interaction between those activities and local resources.

For this purpose, in this paper, focusing on the public interest activities on Vories and Omi brotherhood, I review the mission and actual conditions of the organization, the interactions between those activities and local resources, the relationships between the public interest and creative capital of Omi brotherhood.

The following result were obtained: "HITOTSUBU-no-KAI Preservation and Regeneration Movement of Vories Architecture" in those activities on Vories and Omi brotherhood; (1) is working on local resources created by Vories and Omi brotherhood; (2) is growing as open creative community in the germination term; (3) may provide local community with new public interests utilizing technology and know-how developed in preservation and regeneration activities of Vories Architecture.

【Keywords】

Creative Capital, Omi Brotherhood, Vories Architecture, Building Preservation, Creative Community

はじめに

ヴォーリズを中心に形成された『近江兄弟社』¹⁾は、近江の地を拠点に、キリスト教伝道のみならず、医療、教育文化、建築、輸入品販売等の当時としては先進的な社会事業に取り組み、ヴォーリズ建築をはじめとする数多くの業績を遺してきた。それらは貴重な地域資源(ヴォーリズ、『近江兄弟社』に関連する地域資源を、以下、「ヴォーリズ関連資源」と言う)となって現代に継承され、今日も新たな活動団体がかわりをもつことでさらなる発展を続けている。本研究²⁾の主題は、なぜ、ヴォーリズ、『近江兄弟社』の活動と創出された地域資源が現代に継承され、多くの人々を魅了し、今日においても新たな発展を続けているのかについて光をあてることにある。このため、ソーシャル・キャピタル、クリエイティブ・キャピタルに関する理論や概念を援用し、地域再生の担い手がいかなる特徴をもち、いかなる活動を行い、その活動によっていかなる地域資源を創出、活用し、地域にいかなる影響をもたらしているのかを考察する。

筆者はこれまでに、『近江兄弟社』が伝統的なコミュニティの側面と自由でクリエイティブな人材の集団の側面を有するという独自性に注目して組織の特徴を整理し、『近江兄弟社』の活動と地域資源との相互作用を把握した。その上で、組織と地域資源との相互作用が地域に公益をもたらす「創造的資本」であることを明らかにし、その概念整理を行った(山村[2010])。本稿では、2つの特定非営利活動法人³⁾、ヴォーリズ建築保存再生運動一粒の会(以下、「一粒の会」と言う)及びヴォーリズ精神継承委員会(以下、「継承委員会」と言う)の活動、並びに2009年10月3日から11月3日に開催されたウィリアム・メレル・ヴォーリズ展 in 近江八幡市(以下、「ヴォーリズ展」と言う)について焦点をあて、「ヴォーリズ関連資源」に働きかける公益活動について考察する。

I. 地域再生における「創造的資本」の概念

1. 「創造的資本」とは

地域再生とは、地域住民、地縁組織、社会的企業、NPO、公共機関等が連携して、主体的に地域資源を用いて、地域社会の発展、地域経済の活性化、地域文化の醸成等に取り組むことであると考えられる。地域再生の過程において、地域再生の担い手は、埋もれた地域資源を開拓し、あるいは、新たな地域資源を創出し、それらを活用することで、時として、地域の課題に創造的で革新的な解決策をもたらし、そうした経験を培うことで担い手自身も成長する。このような地域再生の担い手と地域資源との相互作用は、地域再生における投資－再投資の循環として捉えることができ、地域再生の担い手である組織や組織を構成するメンバーに対する利益供与を超え、地域に公益をもたらす「創造的資本」(山村 [2010] pp.30～31) と意味づけられる。地域再生における「創造的資本」は、社会的信頼から生み出されるソーシャル・キャピタルとは異質な資本の性質を包含しており、また、Floridaが提唱するクリエイティブ・キャピタルの概念とも異なっている⁴⁾。また、「創造的資本」は、地域再生の担い手となる「クリエイティブ・コミュニティ」(表1参照)が地域資源に働きかけることを前提としている。この「クリエイティブ・コミュニティ」とは、クリエイティブ・キャピタルとソーシャル・キャピタルとの両立可能性より導出された概念であり、「結束型」と「橋渡し型」両方の性格を有するソーシャル・キャピタルを形成し、クリエイティブな人材が社会的信頼関係を基盤として活動・連携するようなコミュニティが想定されている(山村 [2010] p.30)。

表1 ソーシャル・キャピタルとクリエイティブ・キャピタル

		ソーシャル・キャピタル	
		低	高
クリエイティブ・キャピタル	高	(1) クリエイティブクラス	(3) クリエイティブ・コミュニティ
	低	(2) フリーライダー群	(4) 伝統的コミュニティ

(出所) 山村 [2010] p.30

2. 『近江兄弟社』にみる「創造的資本」

地域再生における「創造的資本」は、『近江兄弟社』の活動を通じて導出された概念であり(山村 [2010] pp.46～47)、その成り立ちを概観しておく。『近江兄弟社』は、先進的な社会事業を大きく発展させることで、多大な事業資産を形成し、それらは、近江の地域医療、地域福祉の発展、産業部門の成功による雇用の創出等の地域経済の活性化、「近江ミッション文化」の伝播等大きな公益をもたらす地域資源として今日に継承されている。加えて、それらの「ヴォーリズ関連資源」に働きかけることで新たな公益活動が創出されている。『近江兄弟社』が取り組んできた社会事業は、「結束型」ソーシャル・キャピタルと「橋渡し型」ソーシャル・キャピタルの連動により展開されてきたと言える。『近江兄弟社』にとって、この二つのソーシャル・キャピタルは、組織の形成・発展の段階において必要不可欠な構成要素であり、同時に、正の社会的効果を発揮してきた。加えて、『近江兄弟社』は、医療、教育文化、建築等に携わる、当時の先端技術、知識を有する人材や文化の担い手を数多く擁し、豊富なソーシャル・キャピタルと多彩なクリエイティブ・キャピタルを有する「クリエイティブ・コミュニティ」を形成し、創造的なガバナンスシステムを構築することにより、先進的な社会事業を展開していた。こうした組織の特徴を有する『近江兄弟社』の活動と、その活動を通じて創出された地域資源との相互作用を地域に公益をもたらす一種の投資行動として捉え、その構成要素を次のように整理することができる(表2参照)。

表2 「創造的資本」の構成要素

区分	要素	特徴
「クリエイティブ・コミュニティ」の特徴	1) ミッション経営の実践	組織は平等性、先進性、専門性、開放性の高いミッションを備えるとともに、強い帰属意識、奉仕精神を有する人材を抱え、地域に根ざして経済的に自立したミッション経営を実践している。
	2) 重層的ネットワークの形成	信頼関係に基づく強い結束型ソーシャル・キャピタル(閉鎖型ネットワーク)と、緩やかで多様な人的ネットワークである橋渡し型ソーシャル・キャピタル(開放型ネットワーク)とが正の社会的効果を発揮している。
	3) 「クリエイティブ・コミュニティ」の形成	豊富なソーシャル・キャピタルと多彩なクリエイティブ・キャピタルを有する「クリエイティブ・コミュニティ」が形成されており、クリエイティブな人材が社会的信頼関係を基盤に活動・連携している。
	4) 「クリエイティブ・コミュニティ」の成長と衰退	組織は、成長と衰退のメカニズムを有し、各段階に応じた運営を行っている。「クリエイティブ・コミュニティ」は必ずしも永続的でないが、再生可能性を有することが示唆されている。
組織と地域資源との相互作用	5) 社会事業の展開	組織のミッションを実現するために多様で先進的な社会事業に取り組み、組織のメンバーが社会事業に従事することを通じ、ミッション経営の自立を支え、その結果、大きな事業資産を形成している。
	6) 創造的ガバナンスシステムによる事業運営	社会事業を支える資金調達手段とその運用の仕組みが確立されており、成功した事業により得られた収益をより社会性の高い事業に還元することを可能とするガバナンスシステムが構築されている。
	7) 地域への公益の創出	組織が形成した事業資産が地域資源として活用され、組織自体や組織を構成するメンバーに対する利益供与を超えて、地域社会の発展、地域経済の活性化、地域文化の醸成に寄与している。
	8) 地域再生への投資-再投資	組織が地域資源を活用することで、地域の課題に取り組み、自らも成長、発展する。このような相互作用は、地域再生への投資-再投資の循環と捉えることができ、一連の価値創造の連鎖となっている。

(出所) 山村 [2010] p.47より筆者作加筆修正

3. 本稿における「創造的資本」の分析視点

近江八幡に根差し「ヴォーリズ関連資源」に働きかける公益活動(表3参照)としては、NPO活動や文化活動等による取り組みが見られる。近江八幡市内にNPO法人として「一粒の会」と「継承委員会」が設立されており、それぞれヴォーリズ建築の保全活用やヴォーリズ精神の継承等にかかる活動に取り組んでいる。また、近江八幡市内で実施されたヴォーリズに関連する主な催しには、「ヴォーリズ・シンポジウム」「ヴォーリズ展」「ヴォーリズ建築文化全国ネットワーク」「ウィリアム・メレル・ヴォーリズ生誕130年記念式典」等がある。

本稿では、上記の活動の中で、持続的な活動を続けている「一粒の会」及び「継承委員会」の活動と、近江八幡市内で開催され、1万人以上の来場者があった「ヴォーリズ展」を取り上げ、表4の分析視点に基づき、組織(活動)のミッションとヴォーリズとの関連性、組織が取り組む事業の公益性、組織の活動と創出された地域資源の相互作用等を把握する。

表3 ヴォーリズに関連する主な公益活動等

NPO活動	特定非営利活動法人ヴォーリズ建築保存再生運動一粒の会(2000年04月03日設立) 特定非営利活動法人ヴォーリズ精神継承委員会(2006年01月19日設立)
文化活動等	ヴォーリズ・シンポジウム(1994年・1995年・1997年開催) ウィリアム・メレル・ヴォーリズ展 in 近江八幡市(2009年開催) ヴォーリズ建築文化全国ネットワーク in 近江八幡(2009年開催) ウィリアム・メレル・ヴォーリズ生誕130年記念式典(2010年開催)

(出所) 筆者作成

表4 公益活動における「創造的資本」の分析視点

(1) 組織のミッション	①組織のミッション（目的・精神性）、②組織のミッションと人的ネットワークとの形成、③組織のミッションとヴォーリズとの関連性 等
(2) 組織の運営実態	①組織が取り組む事業の公益性、②組織の意思決定、資金調達の方法、③組織の運営方法 等
(3) 組織の発展過程と創出された地域資源	①組織の形成・発展の過程、②組織が創出した地域資源、③組織の活動や地域資源の地域にもたらす影響 等
(4) 「創造的資本」の質	①組織の活動と組織が創出した地域資源の相互作用、②新たに創出された公益、③『近江兄弟社』の「創造的資本」との関係性 等

（出所）山村 [2010] p.47を筆者加筆修正

なお、(1) 組織（活動）のミッション、(2) 組織（活動）の運営実態については、「一粒の会」「継承委員会」及び「ヴォーリズ展」を比較整理することで把握する。(3) 組織の形成過程と創出された地域資源、(4) 「創造的資本」の質については、特に、「一粒の会」の活動に焦点をあて考察する。

Ⅱ. ヴォーリズをめぐる公益活動

1. 特定非営利活動法人ヴォーリズ建築保存再生運動一粒の会（以下「一粒の会」とする）

「一粒の会」事業報告書より、活動組織のミッション、活動組織の運営実態等について次のとおり整理する。

(1) 活動目的と活動内容

「一粒の会」の活動目的は、「近江八幡市名誉市民第1号ウィリアム・メレル・ヴォーリズが、市民はもとより広く社会に建築を通して訴えてきたことを後世に伝承するため、今は朽ちかけつつあるヴォーリズ建築の保存再生に関する事業を行い、21世紀の人にやさしい建築のあり方や歴史を生かしたコミュニティの育成などまちづくりに寄与する」ことにある。また、その活動目的を実現するために、非営利活動にかかる事業として、1) ヴォーリズ建築の保存再生、2) 趣旨に賛同する者のネットワークづくり、3) ヴォーリズ建築に関する情報資料収集、4) ヴォーリズの情報発信基地、5) ヴォーリズ建築を活かしたコミュニティの形成、並びに、収益事業となるヴォーリズ建築を活用しての貸館事業の実施を掲げている（以上、「一粒の会」定款）。

(2) 理事会構成

2010年7月現在、法人理事は13名、理事の中に近江兄弟社学園卒業者は1名だが、近江兄弟社関連企業に所属する者はいない。本部会員47人、ネットワーク会員43人、顧問2人となっており、本部会員は2003年の27名から20名増員している。近江八幡市内在住者については、本部会員の内23人、ネットワーク会員の内22人である（一粒の会 [2010] 資料）。

(3) 事業内容

2007年度から2009年度までの3年間の事業内容について、「一粒の会」事業報告書より整理する（表5参照）。

事業の受益者の範囲をみると、一般及び会員が受益対象となる「旧八幡郵便局の回収・清掃」「ヴォーリズサロンの開催」「旧八幡郵便局の開館・案内・展示の充実」等の事業と、会員が受益対象者となる「旧八幡郵便局の耐震診断」「広報の発行」等がある。

表5 過去3カ年の事業の概要

	2007年度 (2007.7.1~2008.6.30)	2008年度 (2008.7.1~2009.6.30)	2009年度 (2009.7.1~2010.6.30)
特定非営利活動 にかかる事業	◇旧八幡郵便局の改修・清掃 ◇ヴォーリス講座の開催 ◇旧八幡郵便局の会館(案内) ◇旧八幡郵便局の耐震診断 ◇県内のヴォーリスネットワーク交流会 ◇近江八幡市風景づくり計画策定委員会への参加 ◇近江八幡市中間支援会議への参加 ◇びわ湖放送(近江八幡特集)への出演 ◇NHK放送(610近江八幡特集)への出演 ◇広報の発行 ◇パンフレットの作成	◇旧八幡郵便局の改修・清掃 ◇ヴォーリス講座の開催 ◇旧八幡郵便局の会館(案内) ◇旧八幡郵便局の耐震診断 ◇ヴォーリス建築文化全国ネットワークへの参加 ◇ヴォーリス建築文化全国ネットワーク実行委員会の立ち上げ・運営 ◇あきんど道商店街の行事への参加 ◇ヴォーリス建築スケッチ大会・スケッチ展の開催 ◇一粒の会のヴィジョンについての話し合い ◇近江八幡市中間支援会議への参加 ◇広報の発行 ◇貸し館事業	◇旧八幡郵便局の改修・清掃 ◇旧八幡郵便局の耐震診断 ◇ヴォーリスサロンの開催 ◇旧八幡郵便局の開館・案内・展示の充実 ◇ヴォーリス建築文化全国ネットワーク総会の開催 ◇あきんど道商店街の行事への参加 ◇近江八幡のヴォーリス建築に関するパンフレットの作成・販売 ◇広報の発行 ◇貸し館
その他事業	◇貸し館事業	—	—

(出所) 「一粒の会」事業報告書より筆者作成

(4) 事業収支

2007年度から2009年度までの3年間の事業収支は下表のとおりである。2009年度の収入をみると、会費収

表6 過去3カ年の事業収支(単位:円)

	2007年度 (2007.7.1~2008.6.30)	2008年度 (2008.7.1~2009.6.30)	2009年度 (2009.7.1~2010.6.30)
収入	収入合計 581,321 (内訳) 会費収入 312,780 事業収入 129,300 ◇旧八幡郵便局入館料 ◇パンフレット販売収入 助成金 48,000 ◇NPOサポート事業 雑収入 91,241 その他の事業 支出合計 293,000	収入合計 885,182 (内訳) 会費収入 367,160 事業収入 373,200 ◇ヴォーリス講座受講料 ◇パンフレット販売収入 ◇協力金(貸館事業) 助成金 57,000 ◇ハートランド推進財団 NPO活動助成金 雑収入 87,822	収入合計 2,358,472 (内訳) 会費収入 372,000 事業収入 716,470 ◇旧八幡郵便局入館料 ◇パンフレット販売収入 ◇協力金(貸館事業) 助成金 863,782 ◇NPOサポート事業 雑収入 406,220
支出	支出合計 617,665 (内訳) 事業費 538,804 ◇改修事業 ◇コミュニティ育成事業 ◇ネットワーク事業 ◇広報事業 管理費 78,861 その他の事業 支出合計 293,000	支出合計 437,540 (内訳) 事業費 186,131 ◇改修事業 ◇コミュニティ育成事業 ◇ネットワーク事業 管理費 251,409	支出合計 1,970,512 (内訳) 事業費 545,685 ◇改修事業 ◇ネットワーク事業 ◇コミュニティ育成事業 管理費 1,424,827
収支	当期収支差額 -36,334 前期繰越金 1,278,677 次期繰越金 1,242,333	当期収支差額 447,642 前期繰越金 1,242,975 次期繰越金 1,689,975	当期収支差額 387,960 前期繰越金 1,689,975 次期繰越金 2,077,935

(出所) 「一粒の会」事業報告書より筆者作成

入が37万2000円となっており、当期収入の15.8%を占めている。事業収入は71万6470円（30.4%）、助成金は86万3782円（36.6%）である。会費収入は3年間に微増となっているが、事業収入は大きく増加してきている。一方、2009年度の支出は197万512円、収支は38万7960円の黒字となり、前期繰越金を合わせ次期会計への繰越金207万7935円を計上している。

（5）事業の成果

2007年度から2009年度までの3年間の事業活動がどのような成果を得ているかは下表のとおりである。ヴォーリス建築の保存再生、ヴォーリス建築にかかわる人材等とのネットワークづくり、地域住民との交流等が図られている。「一粒の会」のホームページを通じて、活動の概要を知ることができる。

表7 過去3カ年の主な事業成果

	2007年度 (2007.7.1～2008.6.30)	2008年度 (2008.7.1～2009.6.30)	2009年度 (2009.7.1～2010.6.30)
成 果	<p>ヴォーリス建築連続講座を6回開催し、述べ60人の受講者の参加を得ている。講座の内容は、全国及び近江八幡市内のヴォーリス建築に関する内容、旧郵便局や本会の活動に関する内容、ヴォーリスの人物像に関する内容。</p> <p>1階事務所スペースを商業スペースに改修し、ホールがコミュニティスペースとして活用されるようになり、来館者に喜ばれている。</p> <p>県内のヴォーリスネットワーク交流会は、4年来の交流活動であり、彦根市民活動センターで開催された。</p>	<p>ヴォーリス建築連続講座を4回開催し、述べ130人の受講者の参加を得ている。2007年度より参加者が増加した。</p> <p>ヴォーリス建築文化全国ネットワークに参加するとともに、ヴォーリス建築文化全国ネットワーク実行委員会の立ち上げ・運営に参画している。</p> <p>ヴォーリス建築スケッチ大会・スケッチ展を開催し、30名の参加を得ている。</p> <p>また、あきんど道商店街の行事に参加し、地域住民との親睦が深まった。</p>	<p>ヴォーリス精神の普及やヴォーリス建築にかかわる人材との交流を深めるため、ヴォーリス建築文化全国ネットワーク大会を開催、約500名の参加を得ている。</p> <p>旧八幡郵便局の土曜日の開館に努め、近江八幡のヴォーリス建築への関心が高まり、企業・団体の見学希望者が増加した。</p> <p>あきんど道商店街の行事に参加し、地域住民との親睦が深まった。</p> <p>旧八幡郵便局について耐震診断を実施し、耐震補強の方向性が導出された。</p>

（出所）「一粒の会」事業報告書より筆者作成

2. 特定非営利活動法人ヴォーリス精神継承委員会（以下「継承委員会」とする）

「継承委員会」事業報告書より、活動組織のミッション、活動組織の運営実態等について次のとおり整理する。

（1）活動目的と活動内容

「継承委員会」の活動目的は、「近江八幡市民に対して、近江八幡市名誉市民 一柳米来留（ヴォーリス）を顕彰し、その精神を継承することにより、国際平和の推進と地域社会の発展に寄与すること」ことにある。また、その活動目的を実現するために、非営利活動にかかる事業として、1）ヴォーリスを顕彰するための講演会、展覧会、出版、講演会事業、2）ヴォーリス設計の建築物の管理事業の実施を掲げている（以上、「継承委員会」定款）。

（2）理事会構成

2011年7月現在、「継承委員会」の法人理事は12名となっており、理事の中に近江兄弟社学園役職者等の関係者が約半数を占めている。

(3) 事業内容

2007年度から2009年度までの3年間の事業内容については下表のとおりである。

事業の受益者の範囲をみると、ヴォーリズ・アカデミー講座は、近江兄弟社学園の教職員、学生等学園関係者を中心に実施されている。ハイド記念館は一般公開されており、パネル展等は一般にも公開されている。

表8 過去3カ年の事業の概要

	2007年度 (2007.4.1～2008.3.31)	2008年度 (2008.4.1～2009.3.31)	2009年度 (2009.4.1～2010.3.31)
特定非営利活動 にかか事業	◇ハイド記念館一般公開 ◇ヴォーリズ・アカデミー 講座(学内教職員・中 学生・高校生・一般) ◇ヴォーリズ夫人(満喜子) 緑のピアノカバー贈呈式 ◇「全国巡回ヴォーリズ・ パネル展」開催 ◇絵本「ヴォーリズさんの ウサギとカメ」原画展 ◇「おばあちゃんの野菜」 直売所	◇ハイド記念館一般公開 ◇ヴォーリズ・アカデミー 講座(学内教職員・中 学生・高校生・一般) ◇保存資料の整理・編集	◇ハイド記念館一般公開 ◇ヴォーリズ・アカデミー 講座(学内教職員・中 学生・高校生・一般) ◇「W.M.ヴォーリズ展in近 江八幡」開催期間中、白 雲館においてヴォーリズ・ パネル展を開催
その他事業	◇「おばあちゃんの野菜」 で得た売上金8万円余を パキスタン地震災害者支 援団体に寄付	◇「おばあちゃんの野菜」 で得た売上金7万円余を パキスタン地震災害者支 援団体に寄付	◇「おばあちゃんの野菜」 で得た売上金4万円余を パキスタン地震災害者支 援団体に寄付

(出所) 「継承委員会」事業報告書より筆者作成

(4) 事業収支

2007年度から2009年度までの3年間の事業収支は下表のとおりである。2009年度の収入をみると、会費収

表9 過去3カ年の事業収支(単位:円)

	2007年度 (2007.4.1～2008.3.31)	2008年度 (2008.4.1～2009.3.31)	2009年度 (2009.4.1～2010.3.31)
収入	収入合計 876,750 (内訳) 会費収入 499,650 事業収入 371,120 ◇アカデミー受講料 ◇図書・絵葉書販売手 数料 ◇ハイド記念館入館料 雑収入 5,980	収入合計 1,222,234 (内訳) 会費収入 377,720 事業収入 834,250 ◇アカデミー受講料 ◇図書・絵葉書販売手 数料 ◇ハイド記念館入館料 ◇テキスト販売代 補填金 10,000 雑収入 264	収入合計 982,105 (内訳) 会費収入 641,000 事業収入 341,000 ◇アカデミー受講料 ◇図書・絵葉書販売手 数料 ◇ハイド記念館入館料 ◇パネル製作費 雑収入 105
支出	支出合計 862,839 (内訳) 事業費 291,318 ◇絵葉書購入量 ◇ハイド記念館公開運 営費 ◇パネル展パネル運 営費 ◇講演費 事務局費 571,521	支出合計 1,261,118 (内訳) 事業費 180,670 ◇ハイド記念館公開運 営費 ◇講演費 事務局費 1,045,098 紛失金 35,350	支出合計 670,371 (内訳) 事業費 129,770 ◇ハイド記念館公開運 営費 事務局費 540,601 その他資金支出 300,000 ヴォーリズ建築補修資 金積立金
収支	当期収支差額 13,911 前期繰越金 181,003 次期繰越金 194,914	当期収支差額 -38,884 前期繰越金 194,914 次期繰越金 156,030	当期収支差額 11,734 前期繰越金 156,030 次期繰越金 167,764

(出所) 「継承委員会」事業報告書より筆者作成

入が64万1000円で当期収入の65.3%を占めている。事業収入は34万1000円（34.7%）となっている。会費収入は2008年度から2009年度にかけて大きく増加している。事業収入は、2008年度が大きくなっている。支出は67万371円、その他の支出としてヴォーリズ建築補修資金積立金が30万円計上されており、2009年度の収支は1万1734円を残し、前期繰越金を合わせ次期会計への繰越金16万7764円である。

（5）事業の成果

2007年度から2009年度までの3年間の事業活動がどのような成果を得ているかは下表のとおりであるが、具体的な成果の内容は示されていない。また、「継承委員会」の具体的な活動内容等を公表するホームページは見られない。2009年度のヴォーリズ・アカデミー講座受講者数は290名となっている。また、「W.M.ヴォーリズ展in近江八幡」開催期間中、白雲館においてヴォーリズ・パネル展が開催されている。

表10 過去3カ年の主な事業成果

	2007年度 (2007.4.1～2008.3.31)	2008年度 (2008.4.1～2009.3.31)	2009年度 (2009.4.1～2010.3.31)
成 果	今後も「ヴォーリズ精神とその生涯」を一般の方々に伝えていく。	「真の国際人 ヴォーリズ」を一般の方々に伝えていく。	ヴォーリズの事業とその精神を一般の方々に伝えられた。

（出所）「継承委員会」事業報告書より筆者作成

3. ウィリアム・メレル・ヴォーリズ展 in 近江八幡（以下「ヴォーリズ展」とする）

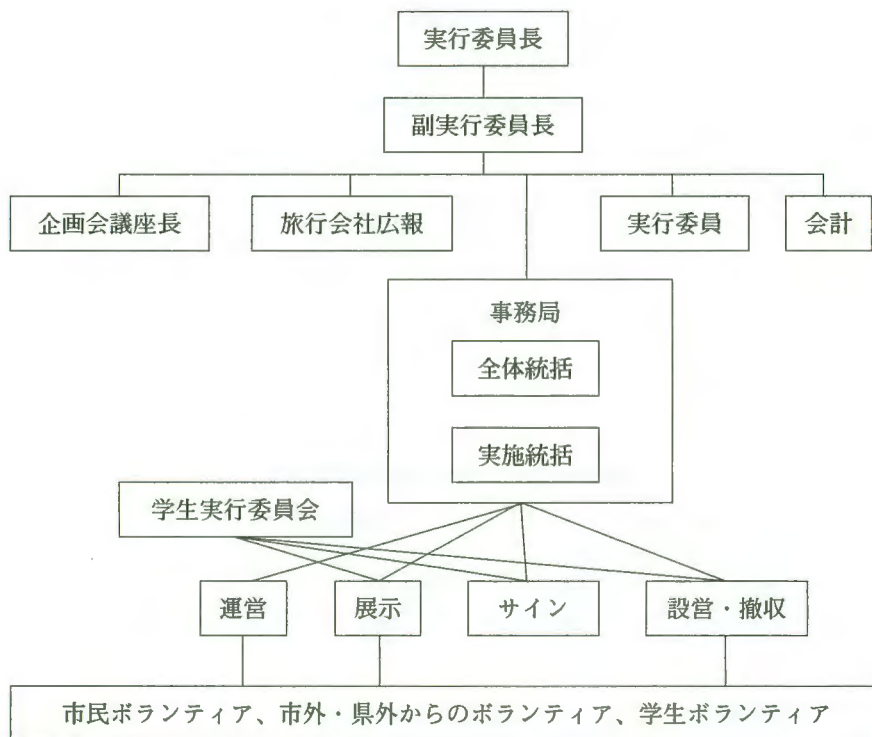
「ヴォーリズ展」は、ウィリアム・メレル・ヴォーリズ展 in 近江八幡 実行委員会事務局 [2009] が発行した「展覧会実施報告書」⁵⁾に基づき、また、同事務局長村西氏からの聴き取りを加え、活動組織のミッション、活動組織の運営実態等について次のとおり整理する。

（1）活動目的と活動内容

「ヴォーリズ展」の事業主旨や目標は、1) 建築家ヴォーリズというイメージだけでなく、伝道と言う本来の目的とともに医療、教育、事業などを通じ、W.M.ヴォーリズ（一柳米来留）とその伴侶である満喜子の全人格と功績、その歴史を多くの人々に知ってもらう、2) 本展示会を機会に、近江八幡そのものの魅力を多くの人々に知ってもらい、近江八幡のブランド力向上に役立てる、3) 熱心なクリスチャンで、社会事業家でもあるヴォーリズの実像と共に、彼が半生を過ごした近江八幡を年齢やライフスタイルを超えて市民が認識し、誇りに感じてもらう機会にする、と「展覧会実施報告書」に記載されている。来場者の目標は、12,000人とされ、内容面での目標としては、ヴォーリズ建築が点在する旧市街地を歩いて回り、各館毎にテーマを設定した分散展示がめざされていた。

（2）実行委員会

「ヴォーリズ展」を運営する組織構成は以下のとおりである（図1参照）。



後援：駐大阪・神戸米国総領事館、社団法人日米協会、滋賀県、滋賀県教育委員会、近江八幡市、近江八幡市教育委員会、滋賀県立大学、社団法人日本建築学会、社団法人日本建築家協会、社団法人日本建築士連合会、財団法人ハートランド推進財団、社団法人近江八幡観光協会

協賛：近江兄弟社グループ（財団法人近江兄弟社、学校法人近江兄弟社学園、株式会社近江兄弟社、株式会社一粒社ヴォーリズ建築事務所）、NPO 法人彦根景観フォーラム

協力：滋賀県立近代美術館、滋賀県立八幡商業高等学校、パナソニック電工汐留ミュージアム、同志社大学、学校法人関西学院、学校法人神戸女子学院、軽井沢町教育委員会、軽井沢ナショナルトラスト、株式会社大丸大阪心齋橋店・京都店、日本基督教団御幸町教会、近江八幡市市立図書館、西勝酒造株式会社、日本基督教団八幡教会、株式会社たねや、株式会社クラブハリエ、株式会社本庄、株式会社関西看板、キタイ設計株式会社、NPO 法人ヴォーリズ精神継承委員会、NPO 法人ヴォーリズ建築保存再生運動一粒の会、近江八幡ライオンズクラブ、近江八幡ワイズメンズクラブ、八幡堀を守る会、近江八幡おやじ連、日赤奉仕団、近江八幡混声合唱団、マルチメディアセンター指定管理者 CM2 グループ、八幡酒造工房、シャール水が浜、有元会社景観模型工房、その他個人協力者、学生ボランティア等多数

図1 実行委員会構成

(出所) 展覧会実施報告書 (ウィリアム・メレル・ヴォーリズ展 in 近江八幡実行委員会事務局 [2009])

(3) 開催概要と展示内容

「ヴォーリズ展」は、ウィリアム・メレル・ヴォーリズ展 in 近江八幡実行委員会により主催され、開催期間は2009年10月3日～11月3日であった。展示場開館時間は9:00～16:00、入場料は当日1,000円、前売り800円他、来場者数1万1063人、招待状発送件数1500件と示されている。

有料展示場は、ヴォーリズ建築4か所（旧八幡郵便局、近江兄弟社学園ハイド記念館、ヴォーリズ記念館、アンドリュース記念館）を含む7箇所を構成、ヴォーリズの多岐にわたる活動や業績を展示パネル、愛用品、模型等を用いたテーマ別展示が展開された。

展示会場（展示テーマ）は、白雲館（総合）、旧八幡郵便局（建築）、酒遊館（軽井沢）、近江兄弟社学園ハイド記念館（教育・医療・賀川乙彦・他）、ヴォーリズ記念館（暮らし、素顔）、アンドリュース記念館（伝道）、株式会社近江兄弟社（事業）から構成され、まちなか巡回用屋外展示としては、ヴォーリズ記念館

前、滋賀県立八幡商業高校、村岡邸、ダブルハウス、クラブハリエ日牟禮館にウエルカムボードや各種案内パネル等が設置された。

(4) 事業収支

実行委員会スタッフによる展示パネル、チラシ・ポスター、公式ガイドブックなどの制作と、市民および学生ボランティアによる展示設営ならびに展示会場運営の結果、行政の補助金・助成金、企業等からの寄付を得ずに、入場料収入と書籍・公式グッズ等の販売収益のみで収支は黒字を達成したとされる。収益については、今後のヴォーリズ顕彰活動のための基金としての活用が謳われている。

(5) 事業の成果

ヴォーリズ建築のみを見せるという観光アプローチではなく、その精神性を伝えるという意味で行った展覧会であり、来場者やメディアの高い評価を得た。また、市民ボランティアによる運営が行われ、その評価が高かった点が収益以上に大きな成功であったと考えられている。

地域資源を掘り起こすことで、地域外に対して近江八幡のブランド構築ができ、特に企業とのコラボレーションにより、ハイド記念館・教育館のライトアップという新たな資産を形成し、その宣伝が近江八幡のブランド力の向上に寄与し、全国、特に首都圏に浸透したと指摘されている。また、事業の後援、協力等に多数の団体・企業（図1参照）が参画していることも注目できる。

地域内への文化資源の再発見という点では必ずしも大きな効果は得られなかったが、「ヴォーリズ展」が地域の小学校や高等学校、近江兄弟社学園の中学・高校の授業に用いられるなど、未来に繋がる人的資産形成に役立ったとされる。「ヴォーリズ展」では、実行委員会が大半のパネルを制作、会終了後も展示パネルを保管（後に財団法人近江兄弟社へ移管）しているため、類似の展示会等に貸出が可能であり、大きな資産を残すことができたと述べられている。

実質3か月の準備期間で展示内容制作から展示設営、広報を行い、収支上損失のないイベントを開催することができた点は成功と考えられており、ヴォーリズ展において蓄積できた経験、ノウハウのソフトな資産と、パネル類の物的資産は、今後の新たな事業展開に十分に活用可能であると位置づけられている。

今後の課題としては、近江八幡市民へのヴォーリズの浸透という点があげられている。また、全来場者数1万1063人中、市民は1435人、高校生以下を含めても2000人強にとどまった。地元マスコミへのアプローチ不足や、市の広報の協力不足などにより、一般市民への周知が図れなかった点も指摘されている。

しかし、来場した市民からヴォーリズ像が見直しできたことへの評価を受けており、また、200人にも及ぶ市民ボランティアがヴォーリズファンとして、今後の大きな財産になりうると自ら評価しており、今後もこのようなヴォーリズの顕彰活動の実施継続が望まれている。

Ⅲ. 「一粒の会」のヴォーリズ建築保存再生運動

1. 近江八幡のヴォーリズ建築

「一粒の会」のヴォーリズ建築保存再生運動を見るにあたり、近江八幡市内に存するヴォーリズ建築の状況等を概観しておく。

ヴォーリズは、1905年に滋賀県立商業学校に英語教師として来日し、学生を集めてYMCA活動を展開するとともに、1907年に八幡キリスト教青年会館を設計建設した。宗教活動を理由に商業学校を解雇されると、ヴォーリズは1908年12月、建築設計監督事務所を開設し、2年後には米国人建築技師レスター・チャーピンを加えてヴォーリズ合名会社を創設した。ヴォーリズは、大正中期から昭和初期にかけて、米国人建築家を含め2~30人建築技師を擁する建築事務所へと発展させ（財団法人近江兄弟社ウェブサイト、社団法人近江八幡観光物産協会ウェブサイト）、幅広く手掛けられた建築は、住宅、学校、教会、デパート、ホテル、事

務所等に及び、戦前だけで1500棟を数える(株式会社一粒社ヴォーリズ建築事務所ウェブサイト)。

近江八幡に建設された『近江兄弟社』に関連するヴォーリズ建築の主なものとしては、近江兄弟社社屋(1911年・1986年近江兄弟社倉庫に建て替え)、米国の郊外住宅に多いコロニアル・スタイルと呼ばれる建築様式の住宅をモデルとした池田町の洋館住宅(1913年・吉田邸・旧ウォーターハウス邸;写真1参照)、後に、その一角に建てられた二世帯住宅のダブルハウス(1921年・ヴォーリズが居住)、ミス・ツッカーの5000ドルの寄付が基金となった近江療養院(1918年・現ヴォーリズ記念病院;写真2)、ヴォーリズ記念病院の敷地の一角にある結核患者の療養所となった希望館(1918年・旧五葉館;写真3)、礼拝堂(1937年)、メンソレータムの創始者A・A・ハイド氏の寄付を受け建設された近江ミッション教育会館や幼稚園舎(1931年・幼稚園舎は現ハイド記念館;写真4)、ヴォーリズ夫妻が後半生最後まで住んだ住宅(1932年・現ヴォーリズ記念館;写真5)等がある(山形[2008年(1994年初版)] pp.4-15、財団法人近江兄弟社ウェブサイト、社団法人近江八幡観光物産協会ウェブサイト)。

また、スパニッシュ・デザインが用いられた初期のヴォーリズ建築の旧八幡郵便局(1921年・現在、「一粒の会」が管理運営)、八幡商業学校(1938年・ヴォーリズが英語教師として赴任した学校であり、後の建て替えの際に設計;写真6)、旧安田邸(1936年・現クラブハリエ日牟禮カフェ)、市立資料館(1953年・八幡警察署として使用されていた建物を改修設計)、旧近江兄弟社地塩寮(1940年・現近江八幡教会牧師館)、近江金田教会(1959年)等があり、その他、近江八幡市内にはヴォーリズが手がけた前田邸(1931年)や旧岩瀬邸(1933年)等の住宅が点在している(山形[2008年(1994年初版)] pp.4-15、ヴォーリズ建築保存再生運動一粒の会「近江八幡のヴォーリズ建築」)。

「一粒の会」の調査によれば、2008年現在、ヴォーリズ建築が近江八幡市の市街地、旧八幡町の伝統的な町並みが今も残された地区に24棟現存しており(「近江八幡のヴォーリズ建築」、建物の老朽化への対応が課題となっている)。



写真1 近江ミッション住宅



写真2 近江療養院(現ヴォーリズ記念病院)



写真3 希望館(旧五葉館)



写真4 近江兄弟社学園教育会館・ハイド記念館



写真5 現ヴォーリス記念館



写真6 八幡商業高等学校

(出所) 写真1・4・6は社団法人近江八幡観光物産協会の許可を得て、同ホームページより転載
写真2・3・5は財団法人近江兄弟社の許可を得て、同ホームページより転載

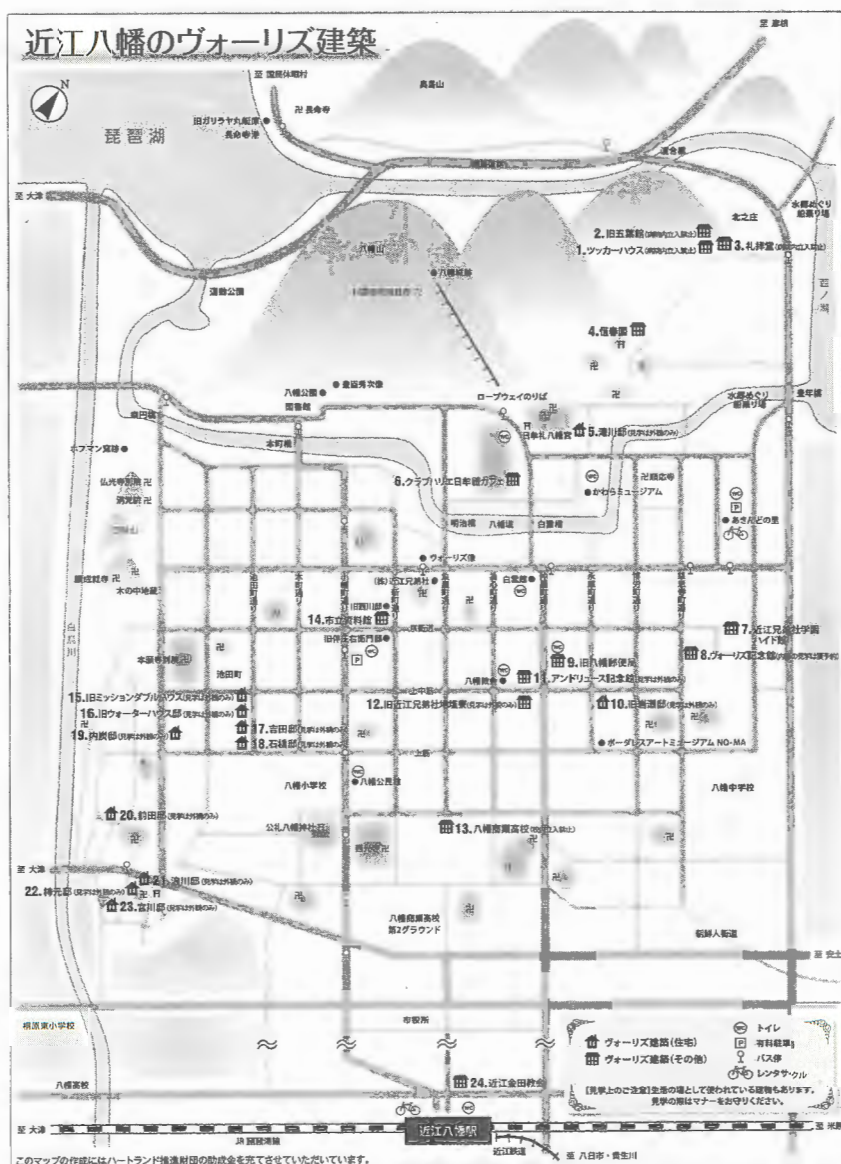


図2 近江八幡のヴォーリス建築 (マップ)

(出所) 特定非営利活動法人ヴォーリス建築保存再生運動一粒の会「近江八幡のヴォーリス建築」

2. 旧八幡郵便局保存再生運動と「一粒の会」

旧八幡郵便局保存再生運動については、「一粒の会」理事石井氏へのヒアリング⁶⁾、「一粒の会」ウェブサイト、さらには、旧八幡郵便局保存再生運動が記録されている「一粒の会旧八幡郵便局保存再生運動」(冊子)等より整理する。

(1) 保存再生運動の成り立ち

1921年にヴォーリズ的设计で建てられた歴史的建造物旧八幡郵便局保存再生運動の背景には、1994、1995、1997年に開催されたヴォーリズ・シンポジウムによるヴォーリズ再評価の機運の高まりがあった。こうした情勢の中、現在の「一粒の会」理事メンバーでもある数名が中心となって、ヴォーリズ建築を保存し、現在に伝承することを目的として、1998年7月11日に「一粒の会」を設立した。この会は、任意の団体として出発し、「旧八幡郵便局」保存再生運動を通じて、ヴォーリズの精神と建築遺産を広く語り継ぐ活動を継続的に展開するために、2000年にNPO法人として滋賀県より認証を受けた(石井[2010]ヒアリング)。組織の活動目的は定款に規定されているようにヴォーリズ建築の保存再生とコミュニティの育成等のまちづくりへの寄与である。

表11 2000年(NPO法人格取得)までの「一粒の会」の主な歩み

	～1996年	1997年	1998年	1999年	2000年
活動主体		有志6名で活動をはじめ	一粒の会、任意団体として活動を開始(7月)		特定非営利活動法人ヴォーリズ建築保存再生運動一粒の会設立
交流・ネットワーク活動			・写真展やコンサート等	・NPOネットワークすまいづくりまちづくり情報交流交換会	・市内のまちづくり団体との連携の強化 県内の関連団体との連携の強化
旧八幡郵便局舎の改修活動		・旧八幡郵便局の清掃(2tトラック38台分のゴミは、所有者・商店街の協力で処分)		・1階ホール改修 ・中庭ガーデニング	・1階ホール改修
イベント等活動			・ヴォーリズ写真展		・ヴォーリズ建築スケッチ展 ・ひとまちネット交流会
資金・助成金			・ハウジング&コミュニティ財団(100万円)	・寄付金(150万円) ・ハートランド推進財団	・滋賀県ヴォーリズ建築の保存活用に見る近代コミュニティ育成調査(200万円)
情報発信			・ヴォーリズ・シンポジウム、パンフレットの作成	・広報誌創刊(VoriesMEETING)	・ヴォーリズ・シンポジウム
貸館事業				・陶芸家ダレン・ダモンテ展 ・八幡瓦展 ・クリスマスイブあかり展	・森本二太郎写真展
地域の動き	・「ヴォーリズ顕彰シンポジウム」1994年、1995年、1997年開催				・豊郷小学校の歴史と未来を考える会発足

(出所) NPO法人ヴォーリズ建築保存再生運動一粒の会ウェブサイト、並びに資料「一粒の会の歩み」より抜粋

(2) 保存再生運動の精神

近江八幡市内に存するヴォーリズ建築の状況は上述のとおりであるが、個々の建物の老朽化が進み、建物所有者ばかりでなく、文化財保全やまちづくりの観点からもその保全管理が重要な課題となっている。ヴォーリズ建築の一つである旧八幡郵便局も例外ではなく、従前の賃借人が退去した後、1996年当時は空き家となっており、建物の老朽化、腐朽が進み、建物の解体をも考えざるをえない状況を呈していた。こうした状況を打開するため、心ある建物所有者の理解を得て、1997年10月にヴォーリズに思いを寄せる有志がこの旧八幡郵便局舎の清掃活動をはじめることとなった。当時の有志の思いが後の「一粒の会」発足の契機となり、1998年には任意団体としての活動がはじまり、2000年の特定非営利活動団体としての法人化につながった(石井 [2010] ヒアリング) と言う。

有志ボランティアの一人一人の「小さな力」が集まり、より「大きな力」を生み出し、「旧八幡郵便局舎を完全竣工ではないものの利用できるところまで再生させる」ことができた。ここを起点に「一粒の会」の活動は広がりを見せ、ヴォーリズ建築である旧八幡郵便局舎の保存再生運動を通じて、ヴォーリズの精神をより多くの人々に伝えるだけでなく、歴史的資源、文化資源を活かした「コミュニティ育成などのまちづくりに寄与する」ことを組織のミッションとした。こうした活動によって、「人々が出会い、集い、語り合い、苦しいことも楽しいことも、ともに分かち合え、そして人々が元気になっていく場」(図3参照)を創り、また、「このまち全体が元気になっていけばいい」。そして、「ヴォーリズたち先人の残してくれた建物やまちを、これから生まれてくる子どもたちと一緒に大切にしていきたい」(「一粒の会」ウェブサイト)と述べられている。また、「ヴォーリズの設計した旧八幡郵便局の再生に取り組んでいるのかと自問する時、(中略)ヴォーリズの追い求めていた精神が人間としての健康(身も心も)で有る事を思う時、社会奉仕に尽くしたヴォーリズの立派な気持ちを少し理解できたと思う。その同じ気持ちが仲間と協力し、行動させるのだ。そして、街の中に生き生きと息づいていた情報発信基地としての旧八幡郵便局を多くの人が時間空間を共有する場として、ヴォーリズの建造物から感じられるやさしい空間と空気を実感する事により、人としてのやさしさを発見できるコミュニティスペースとして、又文化芸術等の発信と交流の場として、再生出来るのではないかと強く思うから有る。(原文ママ)」(太田 [2007] p.2)と保存再生運動への思いが記されている。

(3) 保存再生運動の過程と意義

上述に見られるように、「一粒の会」のヴォーリズ建築保存再生運動は、「全国に人を中心に据えた素晴らしい建築をこの近江八幡から発信し、その中でも最もパブリックで、最も老朽化が激しい旧八幡郵便局の再生を、ヴォーリズに魅せられた人々で始めるという素晴らしいチャンス」(村井 [2007] p.16)に恵まれたことに始まる。しかし、当時の旧八幡郵便局舎の壁や天井は朽ち、白蟻も巣食っており、運動の記録(表12参照)に残された有志ボランティアによる旧八幡郵便局舎の清掃活動は、相当の困難を伴うものであった(石井 [2010] ヒアリング)。建物は「雨漏りが進行し、その水がしみ込み、腐ったようなものがたくさんあり」、「臭い」、「手にヌルヌル感を感じる」(伴 [2007] p.7)状態にあったが、「毎週日曜日に2トン車で合計20杯以上のゴミを運び出すことから始め」(村井 [同前])、最後の清掃まで計8回のボランティアによる清掃活動が実施された。清掃作業を続けていく中で、ボランティア有志の「顔は微笑んで」おり、「建物も何やら微笑んでいるよう」で、「室内の生活用品等を搬出し掃除を始めると、ふしぎなことに空気の流れと共に、室内が少しずつ明るくなり、日ざしが入ってくる様子をはっきりとわかるようになり」、清掃を重ねるうちに室内の異臭(カビ臭さ)が消え、「建物が呼吸している様子」を肌で感じられるようになった(伴 [同前])。「ヴォーリズ建築の文化的価値は専門家が判断すること」だが、「旧八幡郵便局は、自分たちの手で蘇るといふ喜びがあるからこそ、建物そのものが心の文化遺産」となり、さらに、「保存とはこの様に建物の本体のみでなく、人と人との出会いや、精神を、様々な形で残していくことが本来の意味」(石井 [2007] p.10)ではないかと提起している。なお、修繕工事の概況について、やや長くなるが以下に引用整理しておきたい

(和波 [2007] p.15)。最初に玄関横に面する元郵便局コーナーが手がけられ、「この部屋は、比較的傷みも少なく修繕も仕上げのみですむこと、また1階であるので人の出入りのよさや荷重に対して安全であると判断したからである」。「最初の作業」は床に敷設された「Pタイル(プラスチック系床材)」の撤去からはじめられたが、「全体的に艶がなく剥離していたが、いざめくりはじめるとこれが簡単にはいかず」、3人が丸1日がかかりで、金づちを用いてPタイルを割って剥がすこととなった。「力のあまり下地モルタルも一緒にめくってしまった部分もあったのでモルタルで補修し新設Pタイルの下地処理調整を行った」と言う。次に、壁の腰部分の板及び見切り、枠材については、「当時を思わせる完全な姿ではあるが塗装が色あせて」いたため、「OP(油性調合ペイント)塗り」で再塗装が行われた。また、「壁及び天井はプラスター塗であったがキズ、汚れがひどく目立っていたのでパテ処理後、再度塗装仕上げとし」、電気配線は現状を撤去した後、新たに配線された。このような修繕工事を通じて多くのノウハウを体得するとともに、ボランティアに加え、専門業者との協力関係が構築された。

これらの再生保存運動のプロセスを通じて、再生保存運動にかかわる人々の信頼関係が醸成されていったことがうかがわれるだけでなく、保存再生運動を通じて培われた経験は、ヴォーリズ建築の改修にかかわるコンサルテーション、ヴォーリズ建築の調査研究等、後の「一粒の会」の活動に活かされている。

表12 再生保存活動の記録

年月日	活動内容
1997. 9.23	「一粒の会」(仮称) 発足
10. 3	清掃の打合せ 所有者との懇談
10. 8	あきんど道商店街理事会出席 保存再生運動への賛同を得る
10.18	第2回郵便局大清掃作戦 2トントラック4台分のゴミ排出
11. 3	第3回郵便局大清掃作戦 2トントラック6台分のゴミ排出
11. 8	第4回郵便局大清掃作戦
11.24	第5回郵便局大清掃作戦
12.13	第6回郵便局大清掃作戦
12.23	大阪芸術大学助教授(当時)山形政昭氏を招き、講演会と見学会開催
1998. 1.25	郵便局清掃
1.31	ヴォーリズ写真展準備のためパネル搬入
2.28	最後の清掃
3.13	ヴォーリズ写真展設営
3.14~ 3.15	ヴォーリズ写真展開催
5.29	中川レンガホフマン窯にて古レンガ収集
6. 3	雨漏り調査準備
6.13	雨漏り調査
7.11	大掃除・「旧八幡郵便局保存再生運動一粒の会」設立総会・フルートコンサート・記念講演会

(出所) NPO法人ヴォーリズ建築保存再生運動一粒の会「旧八幡郵便保存再生運動」(冊子)より抜粋



写真7 清掃作業中の状況①



写真8 清掃作業中の状況②



写真9 清掃作業中の状況③



写真10 清掃作業中の状況④



写真11 改修前のファサード



写真12 改修中のファサード



写真13 改修後のファサード

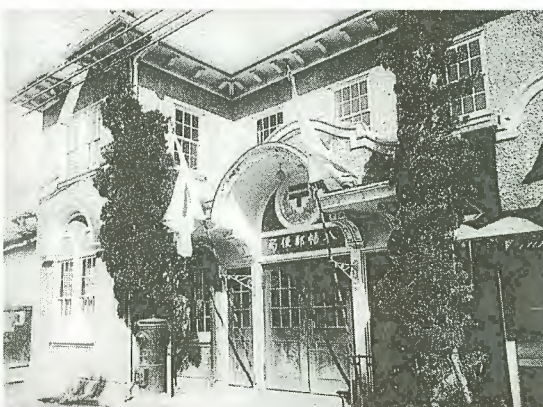


写真14 建築当時のファサード

(出所) 写真7～14はNPO法人ヴォーリズ建築保存再生運動一粒の会提供

3. 「一粒の会」の活動と運営

(1) NPO法人設立後の主な活動

ヴォーリズ建築保存再生運動一粒の会のNPO法人認証は2000年に取得されている。NPO法人設立翌年の2001年から2010年までの主な活動及び改修事業の概要は下表のとおりである。

表13 2001年以降の「一粒の会」の主な歩み

	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年
交流・ネットワーク活動	・歴史資源を生したまちづくりシンポジウム参加	・加古川教会との交流 ・豊郷小学校シンポジウム参加		・ツッカー・ハウス懇親会参加	・滋賀ヴォーリスネットワーク創設
旧八幡郵便局舎の改修活動		・外壁北面改修	・トイレ改修工事 ・建物正面(ファサード)改修工事		
イベント等活動	・ヴォーリス建築スケッチツアー	・ヴォーリスサロン(12回開催) ・ヴォーリススケッチツアー・スケッチ展	・ヴォーリスサロン(7回開催)	・家庭画報読者ツアー開催	・ヴォーリス来幡100周年記念事業 ・八幡商業高等学校ファサード再生プロジェクト ・ヴォーリスサロン(3回開催)
資金・助成金			・ヴォーリス基金設立		
貸館事業	・京都橘女子大学まちづくりイベント ・滋賀県立大学中心市街地まちづくり展示発表	・坪井朝陽絵画展 ・京都橘女子大学まちなみゼミ		・映画撮影現場 ・アトリエひこうきぐも開講	・レトロ前田商店 ・会員結婚式
地域の動き	・伝統的建築群保存地区協議会全国大会(近江八幡)				
	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
交流・ネットワーク活動	・ヴォーリス建築文化ネットワーク準備会(近江兄弟社学園)	・ヴォーリス建築文化ネットワーク設立総会in軽井沢	・第2回ヴォーリス建築文化ネットワーク大会in西宮	・第3回ヴォーリス建築文化ネットワーク大会in近江八幡	・第4回ヴォーリス建築文化ネットワーク大会in北見
旧八幡郵便局舎の改修活動	・屋根(瓦)改修	・元集配室改修	・2階改修		
イベント等活動	・ヴォーリスサロン(3回開催)	・ヴォーリスサロン(4回開催) ・ヴォーリス建築連続講座(6回開催)	・ヴォーリススケッチツアー・スケッチ展 ・ヴォーリス連続講座(4回開催)	・ヴォーリスサロン(1回開催)	・ヴォーリスサロン(2回開催)
資金・助成金		・ハートランド推進財団(ヴォーリス建築講座)		・ハートランド推進財団(ヴォーリス建築マップ)	・滋賀県建築士会滋賀地域貢献活動(ヴォーリス建築パネル作成)
貸館事業					
地域の動き	・特定非営利活動法人ヴォーリス精神継承委員会発足		・近江八幡中間支援会議への参加	・ウィリアム・メレル・ヴォーリス展in近江八幡	・ツッカー・ハウス保存・再生プロジェクト実行委員会発足

(出所) NPO法人ヴォーリス建築保存再生運動一粒の会ウェブサイト、並びに資料「一粒の会の歩み」より抜粋

(2) 活動の場と活動類型

改修された旧八幡郵便局舎は、「一粒の会」の活動拠点となるとともに、多目的スペース、イベント空間、サロン等、地域の情報発信拠点として機能している(図3参照)。

表11、13に見られるように、「一粒の会」の活動は、大きく3つの類型に区分される(図4参照)。1つは、旧八幡郵便局の改修を行う活動であり、1つは、ヴォーリスサロンの開催等を実施するイベント活動、残る1つは、交流ネットワーク活動である。

これらの活動の多くは、会員だけでなく広く一般の参加が可能となっている。事業の成果（表7参照）に見られるように、過半の事業は一般及び会員がその受益対象者となっている。

旧郵便局改修工事の概要

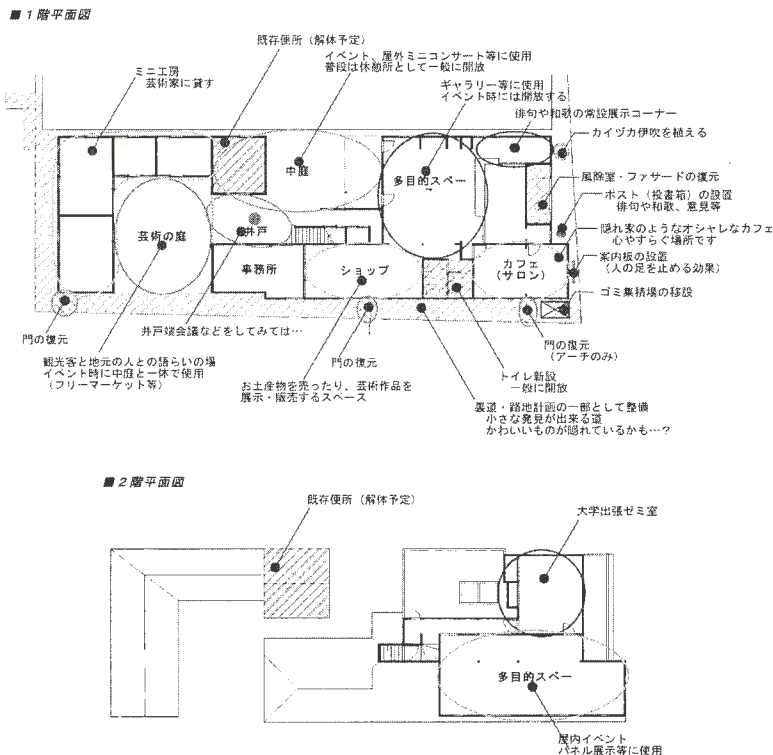


図3 旧八幡郵便局の平面概略図

（出所）NPO法人ヴォーリス建築保存再生運動一粒の会提供

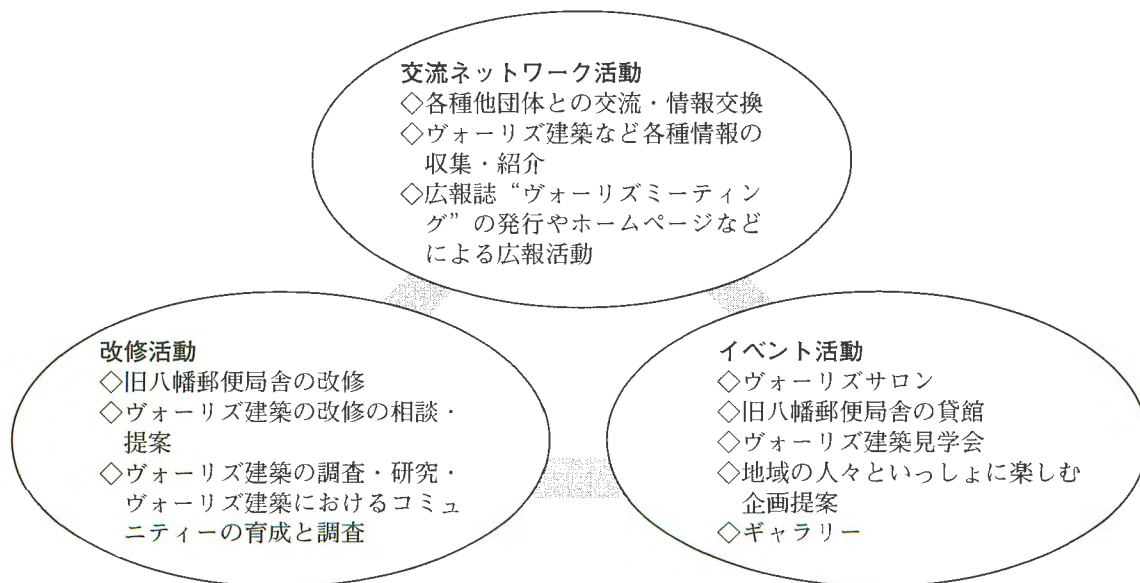


図4 「一粒の会」の活動のイメージ

（出所）NPO法人ヴォーリス建築保存再生運動一粒の会ウェブサイト、資料より作成

(3) 組織の運営

2010年現在、「一粒の会」の法人理事は13名で、理事に近江兄弟社関連企業に所属する者や役員を兼務する者はおらず、旧八幡郵便局の保存再生を通じて集まったボランティアな有志により構成されている。理事長も概ね数年ごとに交代し、常に若いリーダー、組織運営の担い手の育成が図られている。組織を運営し、活動を推進するための事務局業務についても、理事が中心的な役割を担っており、組織の会員は、建築・建設関係の技術者をはじめ、商業者、専門的サービス業者、行政関係者、研究者、会社員、主婦等、多様な人材で構成されている(石井[2010]ヒアリング)。

「一粒の会」は、旧八幡郵便局の保存再生運動を通じて形成された団体であるが、NPO法人設立を前後して、1) NPOネットワークすまいづくりまちづくり情報交流交換会(1999年)により行政との協働を経験し、2) ヴォーリズサロン(2002年~)により会員等の定期的な交流が盛んとなり、また、3) ツッカー・ハウス懇親会(2004年)、4) 滋賀ヴォーリズネットワーク創設(2005年)、5) ヴォーリズ建築文化ネットワーク準備会(2006年)、ヴォーリズ建築文化ネットワーク設立(2007年)等を通じてヴォーリズ建築を媒介としたネットワークが形成され、活動が大きな広がりをもつようになったと言う(石井[2010]ヒアリング)。こうした結果、「一粒の会」の活動内容は活動類型(図4参照)に見られるように、1) 交流ネットワーク活動、2) 改修活動、3) イベント活動として展開されている。

「一粒の会」の事業運営を見ると、上述のとおり、2009年度収入では、会費収入が当期収入の15.8%(37万2000円)、事業収入は30.4%(71万6470円)、助成金は36.6%(86万3782円)となっている。事業収入や助成金の割合が増えることで、ある程度の事業の発展が見込まれるが、一方で、特に助成金に基づく活動が増大した場合、その獲得状況に財源が左右されやすくなる面がある。また、受託事業で有償のスタッフを一時雇用することはあっても、常勤の有償スタッフはなく、団体の運営は理事等のボランティアによって支えられている。組織の経営基盤の確保は、多くのNPOと同様、事業運営の継続性、安定性の面で重要な課題となっている。

IV. ヴォーリズをめぐる公益活動と「創造的資本」

1. ヴォーリズをめぐる公益活動の特性

「一粒の会」、「継承委員会」及び「ヴォーリズ展」それぞれの組織のミッション、活動内容、活動によって形成された地域資源の概要を下表(表14参照)に整理する。

「一粒の会」は1997年より活動を開始し、3つの活動の中では活動期間が最も長く、旧八幡郵便局の保存再生に取り組むとともに、ヴォーリズサロンを通じて組織の会員の交流、ヴォーリズ建築文化ネットワークへの参画により、より開放型のヴォーリズにかかわる人材のネットワークを形成しつつある。ただし、組織の活動は、ボランティアによるNPO活動の範疇にある。

「継承委員会」は、ハイド記念館の管理運営とともに、ヴォーリズ・アカデミー講座の開催が主な活動となっている。ハイド記念館は「継承委員会」が管理運営することで一般公開され、当該施設が観光資源等として活用されている。また、ヴォーリズ・アカデミー講座は、ヴォーリズが取り組んだ事業とその精神を広く伝承するという点で意義を有する。ただし、具体的な事業の内容(講座の応募状況・事業成果等)や組織の運営実態は明らかではなく、活動は近江兄弟社学園関係者(学内教職員・中学生・高校生・保護者等)に重点を置き実施されているものと推測される⁷⁾。また、「一粒の会」と同様、活動は、ボランティアによるNPO活動の範疇にとどまる。

「ヴォーリズ展」は、「展覧会実施報告書」によれば、来場者数1万人を超え、ヴォーリズ建築のみを見せるという観光アプローチにとどまらず、その精神性を伝えるという意味で行われた展覧会としての意義を有するイベントであった。「ヴォーリズ展」は、メディアを通じた地域外への訴求効果をはじめ、大きなインパクトを地域に与え、運営に参加した市民ボランティアにヴォーリズに関する知識が培われ、展示パネル

が再利用可能であること等、一過性のイベントとは異なる地域資源としての価値を残した。一方で、「ヴォーリズ展」の継続的な開催が計画実施されているわけではなく、形成された資源の再利用が図られなければその価値は埋もれてしまうおそれもある。

「一粒の会」、「継承委員会」及び「ヴォーリズ展」の3つの活動は、それぞれヴォーリズ建築、精神、社会事業等を継承し、広く伝承させること等を組織のミッションに置き、NPO活動を展開している。3つの活動は、「ヴォーリズ関連資源」に働きかけることで、ヴォーリズ建築の活用、ヴォーリズにかかわる専門家や市民ボランティアのネットワークの形成、ヴォーリズにかかわる展覧会、講座、イベントの開催等の新たな公益活動を展開してきた。

表14 ヴォーリズをめぐる公益活動の特性

	組織のミッション	組織運営・主な活動内容	形成された地域資源
「一粒の会」	ヴォーリズが建築を通して訴えてきたことを後世に伝承するため、ヴォーリズ建築の保存再生に関する事業を行い、21世紀の人にやさしい建築のあり方や歴史を生かしたコミュニティの育成などまちづくりに寄与する。	組織形態は特定非営利活動法人。 ・旧八幡郵便局の改修 ・旧八幡郵便局の貸館 ・ヴォーリズサロン ・ヴォーリズ建築文化ネットワークへの参画 等	・旧八幡郵便局の保存再生によるコミュニティ活動拠点として活用 ・ヴォーリズサロンを通じた会員等との交流 ・ヴォーリズ建築文化ネットワークを通じたヴォーリズ精神の普及やヴォーリズ建築にかかわる人材との交流
「継承委員会」	ヴォーリズを顕彰し、その精神を継承することにより、国際平和の推進と地域社会の発展に寄与する。	組織形態は特定非営利活動法人。 ・ハイド記念館の管理運営 ・ヴォーリズ・アカデミー講座 等	・ハイド記念館の一般公開 ・ヴォーリズ・アカデミーを通じてヴォーリズの事業とその精神を学園関係者や一般市民へ伝承。
「ヴォーリズ展」	建築家ヴォーリズというイメージだけでなく、伝道と言う本来の目的とともに医療、教育、事業などを通じ、ヴォーリズとその伴侶である満喜子の全人格と功績、その歴史を多くの人々に知ってもらう等。	運営形態は実行委員会方式。 ・ヴォーリズ建築4か所（旧八幡郵便局、近江兄弟社学園ハイド記念館、ヴォーリズ記念館、アンドリュース記念館）を含む7箇所での展覧会 等。	・運営にかかわった専門家や市民ボランティアのネットワーク形成 ・ハイド館・教育館のライトアップ設備 ・展示用に作成された展示パネル（展示会等に貸出が可能） ・地域外への近江八幡のブランド構築に寄与

(出所) 筆者作成

2. 「一粒の会」にみる「創造的資本」の形成

3つの活動の中で事業の継続性、事業内容の公開性等より、地域にもたらす公益が最も大きいと判断される「一粒の会」について、「創造的資本」の分析視点に基づき、組織のミッション、組織の運営実態、組織の形成過程と創出された地域資源について整理する。

第一に、「一粒の会」のミッションについては、ヴォーリズ建築を保存再生し、現代に、さらに次代へ伝承するため、ヴォーリズ建築の保存再生運動に取り組むことが中核的なミッション及び事業となっている。その背景には、「ヴォーリズたち先人の残してくれた建物やまちを、これから生まれてくる子どもたちと一緒に大切にしていきたい」（「一粒の会」ウェブサイト）という設立メンバーの思いがあり、組織のミッションは、ヴォーリズ建築への思いに深く根差すものとなっている。「一粒の会」の発足とともに、組織のミッションは「一粒の会」の活動拠点となる旧八幡郵便局の保存再生運動に結実することとなった。NPO法人設立後、「一粒の会」の活動は、旧八幡郵便局の改修活動、ヴォーリズ建築文化ネットワーク等の交流ネットワーク活動、ヴォーリズサロンをはじめとするイベント活動へと発展し、再生された旧八幡郵便局は、「一

粒の会」の活動拠点としてだけでなく、貸館として地域の情報発信拠点として機能している。また、運営の中核を担う理事には旧八幡郵便局舎の保存再生運動よりかかわるヴォーリズに強い思いを寄せる有志がおり、そこには結束型のソーシャル・キャピタルが形成されている。一方、NPO法人としての組織全体のメンバーをみると、組織のミッションに賛同して参加する緩やかな人的ネットワークの側面が強く、多様な人材が集まっているが、組織の運営は理事等のボランティアによる結束力で支えられていると考えられる。

第二に、現在の「一粒の会」は、NPO法人として認証されており、特定非営利活動促進法に基づく運営がなされている。同法による特定非営利活動とは、法に定められた特定の活動であり、かつ、不特定かつ多数の利益の増進に寄与することを目的とする活動であり、個人の利益やメンバーの利益を目的とするのではない。また、事業計画、予算等は、定款に基づく総会の議決により決定され、形式的には、会員の合意に基づく運営体制が整備されている。実質的には、中核メンバーと活動に積極的にかかわる会員との協議、協働に基づき意思決定が行われ、事業が運営されているものと推測される。2009年度の事業収入が約235万円、支出が197万円であり、実態としては、ボランティアの理事が中心となって事務局運営を行っており、スタッフが常勤する体制が整備されておらず、法人事務局が常時運営できているわけではない。

第三に、組織と地域資源の相互作用の観点から見ると、老朽化した旧八幡郵便局の保存再生運動は、ボランティアで参加した「一粒の会」のメンバーの結束を高めるとともに、改修作業にかかわったボランティア、専門業者との協力関係を築き、保存再生運動を通じて培われた経験が、近江八幡市内や全国に点在するヴォーリズ建築の保存再生に寄与しうる技術・ノウハウとなって蓄積されている。旧八幡郵便局という単体のヴォーリズ建築の保存再生を手がけることで、ヴォーリズ建築の保存再生のための技術・ノウハウが形成され、今後、「一粒の会」のメンバーや専門業者の協力によって市内・全国に点在するヴォーリズ建築の保存再生に寄与することになれば、あるいは、保存再生にかかる技術・ノウハウがヴォーリズ建築以外の老朽化が進む歴史的な洋館等の建造物へも転用できれば、「一粒の会」の活動は組織やメンバーへの利益供与を超え、さらに地域をも超えて、公益を広く提供できることになる。実際に、「一粒の会」の建築保存再生の技術・ノウハウが活用され、滋賀県ヴォーリズ建築の保存活用に見る近代コミュニティ育成調査や八幡商業高等学校ファサード再生プロジェクト(表11、13参照)に活用されており、その萌芽が見られる。また、交流・ネットワーク活動の中で、ヴォーリズ建築文化全国ネットワーク(事務局:財団法人日本ナショナルトラスト)への参画は、ヴォーリズ建築にかかわる多様な人材等とのネットワークを全国へと広げる契機となっている。

3. 「一粒の会」の「創造的資本」

最後に、「一粒の会」の「創造的資本」の質について、『近江兄弟社』の「創造的資本」(山村[2010] pp.44-48)と関係性を整理しておく(表2参照)。

(ミッション経営の実践)

『近江兄弟社』と「一粒の会」の組織のミッションは根本的に異なるものである。『近江兄弟社』は、YMCAの理想に基づく、宗派や教会にとらわれない信徒運動であり、メンバーは厳格な団員規則により組織に帰属し、その中心にヴォーリズと彼を慕う学生との強い信頼関係に基づく「結束型」のソーシャル・キャピタルが形成されていた。一方で、「一粒の会」は、旧八幡郵便局の保存再生にかかわった中心的なメンバー間に「結束型」のソーシャル・キャピタルが形成され、組織はこの中心的なメンバーによるボランティアによる結束力で運営されているものの、基本的にはNPO法人として設立された団体であり、会への入退会は比較的容易に行うことができる。しかし、「一粒の会」は、そのミッションに基づき、ヴォーリズ建築に働きかけることで、コミュニティの発展に寄与し、地域の公益に寄与することをめざしている。「ヴォーリズ関連資源」であるヴォーリズ建築を媒介として、組織のミッションを実現するための事業を実施している。

(重層的ネットワークの形成)

『近江兄弟社』には、メンバーの組織への帰属意識、奉仕精神を高める側面と、平等性、先進性、専門性、

開放性といった組織内の寛容を促す側面があり、ヴォーリズを中心とする人的ネットワークによって多様な人材が次々と『近江兄弟社』とかかわりをもつことで、ミッション実現のための寄付や事業活動の収益等からなる豊かな資金調達力を有する開放的で強かな組織が形成されてきた。「一粒の会」を見ると、組織全体としては、ヴォーリズサロンや講座の開催等の活動によって、ゆるやかな開放型ネットワークが形成され、また、ヴォーリズ建築にかかわる全国的な人材のネットワークが形成されつつある。現在のところ、これらのネットワークが組織の発展にどのような効果を発揮しうるかは十分に捉えきれないが、ネットワーク自体は広がっていく方向にある。

(クリエイティブ・コミュニティの形成・成長)

『近江兄弟社』においては、クリエイティブな人材がヴォーリズを中心とする社会的信頼関係を基盤として活動・連携する「クリエイティブ・コミュニティ」が形成されており、この点が『近江兄弟社』という組織の大きな特徴となっていた。「一粒の会」では、旧八幡郵便局の保存再生運動からはじまり、調査研究活動、イベント活動をはじめとする文化活動等が展開されており、また、ヴォーリズ建築文化全国ネットワークが形成されていることも加え、ネットワーク型の多様な人材集積が進んでいると言える。しかしながら、ソーシャル・キャピタルとクリエイティブ・キャピタルの結合によって、多様な社会事業を創出しうる事業開発力や資金調達力が組織に形成されているわけではなく、「クリエイティブ・コミュニティ」としては萌芽期の段階にあると考えられる。また、「クリエイティブ・コミュニティ」として成長を遂げる場合も、開放型ネットワークを形成するテーマ・コミュニティとしての性格をより強く持つものと想定される。

(社会事業の展開)

『近江兄弟社』は先進的な社会事業に取り組み、その社会事業を支える資金調達手段とその運用の仕組みが確立されており、成功した事業により得られた収益をより社会性の高い事業に還元することを可能とするガバナンスシステムを構築していた。社会事業の展開に関しては、「一粒の会」は助成金等による事業を実施しているものの、事業から得られる利益を他の事業に配分しうる収益事業を展開するには至っていない。事業経営の観点からはボランティアによるNPO活動の範疇にあり、『近江兄弟社』のように成功した事業の収益を他の事業に配分できる社会事業を展開できているわけではない。しかしながら、旧八幡郵便局の改修工事の費用は会員から得られた会費等より捻出され、ボランティアを中心に保存再生を行う手法は、これまでにあまり見られない歴史的建造物の保存再生のあり方を示唆するものとなっている。なお、NPO法人であるため、収益の理事、社員への配分は禁止されている等、特定非営利活動促進法に基づく統治体制は担保されている。

(創造的ガバナンスシステムによる事業運営)

『近江兄弟社』が形成した事業資産は、慈善活動、宗教活動の推進だけでなく、近江の地域医療、地域福祉の発展、産業部門の成功による雇用の創出等の地域経済の活性化、「近江ミッション文化」の伝播等によって大きな公益を地域にもたらすとともに、「近江兄弟社グループ」として今日も新たな成長を続けており、貴重な地域資源として現代に継承されている。『近江兄弟社』が発展した要因は、「クリエイティブ・コミュニティ」としての特徴を持つ組織が、創造的なガバナンスシステムに基づき、社会事業を展開したことにあると言える。一方、「ヴォーリズ関連資源」である旧八幡郵便局舎の保存再生にかかわることで、「一粒の会」は誕生し、成長してきた。「一粒の会」によって保存再生された旧八幡郵便局舎が地域の情報発信拠点となっており、また、ヴォーリズ建築の保存再生を通じて培われた技術・ノウハウが市内・全国に点在するヴォーリズ建築の保存再生に寄与しうる力を持つことが期待できる。ヴォーリズサロンをはじめとするイベント活動やヴォーリズ建築の調査・研究活動も、ヴォーリズ建築を活かしたコミュニティの形成等に寄与してきた。このような「一粒の会」の組織としての意思決定には、ボランティア精神で集まった理事等の中心的メンバーからなる創造的なガバナンスシステムがゆるやかに働いていると言える。

(地域への公益の創出・地域再生への投資－再投資)

『近江兄弟社』は、先進的な社会事業を大きく発展させ、多大な事業資産を形成し、近江の地域医療、地

域福祉の発展、産業部門の成功による雇用の創出等の地域経済の活性化、「近江ミッション文化」の伝播等大きな公益をもたらしてきた。老朽化したヴォーリズ建築を保存再生するという技術・ノウハウを培った「一粒の会」の活動は、『近江兄弟社』の「創造的資本」を継承し、発展させる可能性を有している。ヴォーリズ建築の保存再生技術・ノウハウを有する人材を育成し、コミュニティづくり等の社会事業においてこれらの人材が活躍する機会を形成していくことができれば、地域再生への投資-再投資の循環を創出できると考えられるが、その事業戦略の構築は今後の課題であろう。

なお、近江八幡市内に点在するヴォーリズ建築の保存再生にとどまらず、様々な「ヴォーリズ関連資源」の活用にあたっては、「一粒の会」をはじめとするNPO間、あるいは現在の「近江兄弟社グループ」、行政や公共団体等との協調、協力関係の構築が不可欠であり、『近江兄弟社』の「創造的資本」を継承、発展させていくための、地域再生にかかる創造的なガバナンスシステムの構築が望まれる。

おわりに

本研究は、ヴォーリズ、『近江兄弟社』の活動を通じ、地域再生における「創造的資本」の概念を明らかにし、「創造的資本」の継承、発展の経緯や、その波及効果等を考察することを目的としている。本稿では、「ヴォーリズ関連資源」に働きかける「一粒の会」、「継承委員会」及び「ヴォーリズ展」の活動について、組織のミッションや運営実態、その活動における組織と地域資源の相互作用、『近江兄弟社』の「創造的資本」との関係性等を考察した。

3つの活動は、「ヴォーリズ関連資源」に働きかける新たな公益活動であり、特に、「一粒の会」の活動は、『近江兄弟社』の「創造的資本」を継承し、これまでの『近江兄弟社』の活動には見られない新たな公益活動として発展し、地域再生への投資-再投資の循環を生み出す可能性を有していることを明らかにすることができた。

今後は、ヴォーリズ、『近江兄弟社』が形成した「創造的資本」の「近江兄弟社グループ」における継承とその発展、まちづくりや今日的な地域活性化への波及効果に関する考察を進めたい。

<謝辞>

本研究にあたり、多くのご支援、ご協力をいただいた。特定非営利活動法人ヴォーリズ建築保存再生運動一粒の会理事石井和浩氏並びに同事務局より資料提供、聴き取り、照会への回答等のご支援をいただいた。ウィリアム・メレル・ヴォーリズ展 in 近江八幡 実行委員会事務局長村西耕爾氏より資料提供、聴き取りのご支援をいただいた。また、財団法人近江兄弟社、社団法人近江八幡観光物産協会より写真の転載について快諾いただいた。この場を借りて、改めて感謝の意を表したい。

【注】

- 1) 1911年に「近江ミッション」が形成された後、今日の「近江兄弟社」までを総じて『近江兄弟社』と表記する。現在の近江兄弟社関連企業6法人を指す場合、「近江兄弟社グループ」と表記している。
- 2) 本研究の目的は、地域再生における「創造的資本」の概念を明らかにし、「創造的資本」の継承、発展の経緯や、その波及効果等を考察することにある。本稿では、ヴォーリズ、『近江兄弟社』をめぐる公益活動について焦点をあて、その組織のミッションや運営実態、その活動における組織と地域資源との相互作用等を考察する。
- 3) 本稿では特定非営利活動法人を「NPO法人」、ボランティア団体を含めた非営利活動を行う市民団体を「NPO」、「NPO法人」や「NPO」の活動を「NPO活動」と言う
- 4) 「近年のソーシャル・キャピタル研究は、社会ネットワークの精密な研究へと展開し、伝統的なコミュニティ型紐帯(結束型ソーシャル・キャピタル)から、より開放的な市民アソシエーション型紐帯(橋渡し型ソーシャル・キャピタル)に重心が移っている」と指摘されている(Florida [2005], 小長谷訳 [2010], 訳者による「文献解題2」p.241-244)。

また、クリエイティブ・キャピタルも、中核的なクリエイティブクラスからより広範なサービスクラスを巻き込んだ議論に移行しつつあると考えられる（「クリエイティブクラスとは何者か」五嶋 [2011] pp.6-10）。

- 5) ウィリアム・メレル・ヴォーリズ展 in 近江八幡 実行委員会事務局長村西耕爾氏に面会の上（2010年6月22日）、ヴォーリズ展の概況について説明を受けた。その際、同展「展覧会実施報告書」を提供いただいた。
- 6) NPO法人ヴォーリズ建築保存再生運動一粒の会理事石井和浩氏に面会の上（2010年8月31日）、「一粒の会」の活動、組織の状況について聴き取りを行った。その後、文書での照会に「一粒の会」より回答をいただき、各種の資料提供を受けた。
- 7) NPO法人ヴォーリズ精神継承委員会事務局へ3度ヒアリングの依頼を文書にて申し入れたが、ヒアリングに対する可否の回答は得られなかった。

【参考文献】

- 石井和浩 [2007 (初版1998)] 「旧八幡郵便局保存再生運動」特定非営利活動法人ヴォーリズ建築保存再生運動一粒の会。
ウィリアム・メレル・ヴォーリズ展 in 近江八幡実行委員会事務局「展覧会実施報告書」[2009]。
太田吉雄 [2007 (初版1998)] 「旧八幡郵便局保存再生運動」特定非営利活動法人ヴォーリズ建築保存再生運動一粒の会。
五嶋正風 [2011] 「クリエイティブクラスとは何者か」『Works』リクルート。
特定非営利活動法人ヴォーリズ建築保存再生運動一粒の会「定款」、「事業報告書」[2000～2009]、その他資料。
特定非営利活動法人ヴォーリズ精神継承委員会「定款」、「事業報告書」[2000～2009]。
伴政憲 [2007 (初版1998)] 「旧八幡郵便局保存再生運動」特定非営利活動法人ヴォーリズ建築保存再生運動一粒の会。
村井幸之進 [2007 (初版1998)] 「旧八幡郵便局保存再生運動」特定非営利活動法人ヴォーリズ建築保存再生運動一粒の会。
山形政昭 [2008 (初版1994)] 「建築家ヴォーリズと近江八幡」社団法人近江八幡観光物産協会。
山村和宏 [2010] 「地域再生における『創造的資本』の概念」『創造都市研究』第6巻第2号（通巻9号）pp.23-50。
和波英雄 [2007 (初版1998)] 「旧八幡郵便局保存再生運動」特定非営利活動法人ヴォーリズ建築保存再生運動一粒の会。
Florida Richard [2005], “Cities and the Creative Class (『都市と創造的階級』)”, 小長谷一之訳 [2010] 『クリエイティブ都市経済論』, 日本評論社。

【ウェブサイト】

- 株式会社一粒社ヴォーリズ建築事務所ウェブサイト；<http://www.vories.co.jp/>
財団法人近江兄弟社ウェブサイト；<http://vories.com/index.html>
社団法人近江八幡観光物産協会ウェブサイト；<http://www.omi8.com/vories/buildings.html#01>
特定非営利活動法人ヴォーリズ建築保存再生運動一粒の会ウェブサイト；<http://www.ex.biwa.ne.jp/~hitotubu97/indexs.html>
／以上、最終閲覧日；2012年1月31日